

社会福祉法人 どんぐりの家
平成 29 年度 事業報告

(1) 通所介護事業所

「予防」「維持」の観点から、「出来る事は、積極的にして頂く。」様に、ご利用者が受け身にならず、主体となれる様に働きかけました。

次年度の制度改正に向け、各方面からの情報収集に努めました。

介護は、「人」と「人」という事を再認識する為、ミーティング等に於いて、法人の信条とその基本的精神を、改めて全スタッフで勉強する機会を持ちました。

(2) 認知症対応型通所介護事業所 どんぐりの家 絆

最期までご利用頂く事は難しいと感じる中、「繋ぎ役」に徹し、認知症の方が心穏やかに在宅生活を継続出来る様、その基本的精神について勉強する機会を持ちました。

全スタッフが、バタバタせず、「ゆっくりとした時間が流れる」雰囲気を作り出す事は、今後も続く永遠の課題だと感じています。「見守る」こと、「寄り添う」ことについては、まだまだ課題が多く、引き続き最重要課題として捉えています。

(3) 訪問介護事業所

日々変わる利用者の健康状態等をスタッフ全員が把握出来るように、努めました。又、重度になられたご利用者も安心して最後まで在宅生活が出来るように支援させて頂きました。

スタッフの健康管理にも配慮出来るように努め、車両の事故もなく終える事ができました。

(4) 居宅介護支援事業所

スタッフの平均勤務年数が 10 年以上となり、意識の原点回帰を目的に「ひとつひとつの業務を“大切に”、“丁寧に”行う」ことを目標に取り組んで来ましたが、利用者や家族の思いに気付かず苦情を頂いたこともありました。基本的な部分ですが、相手の立場に立つということは今後も課題です。

綾部市の生活サポート会議には主任介護支援専門員 2 名が計 4 回出席しました。事例を発表されるケース担当者の方に対し質問や助言等行いました。会議への出席は今年度が初めてだった為、会議の在り方について勉強になりました。

中部包括主催の事例検討会に計 6 回出席しました。サポート会議とは違い、一つの事例を深く掘り下げていく過程で、利用者本人の状況やプラン作成者の悩み等もより鮮明に分かり、自分が担当者ならどう支援するのか考える貴重な機会となりました。

(5) おこしやす

現在、月火水木金曜日の週 5 日開所で事業展開中です。新規利用者数が伸び悩み、今年度中に開所準備を予定していた土曜日については、当面開所に至りません。

年間通じ、午前中は綾部市すこやかシニア教室として体操、口腔、栄養をテーマに取り組み、昼食を挟んで、午後は利用者同士で考えて頂いたレクリエーション等行い、9 時～15 時の開所時間で活動しました。

「ノルディックウォーク」は継続しており、利用者の健康維持に貢献しています。スタッフの中にはノルディックウォークの大会を催したり、出場したりして「ノルディックウォーク」が健康に繋がることを広くアピール出来ました。

他、建物の一般利用については、定期として毎月第 3 日曜日の午後に「里福祉をすすめる会による“わいわい集会”」、毎月最終週の水曜日の日中に「パン教室」、不定期として各地域グループの会合、食事会等、また近隣の方のカラオケ利用等がありました。

(6) 配食サービス

独居、高齢者世帯で調理に対して不安が高まって来た方、又家族は居るが仕事等で昼間留守がちの為日中独居の方を対象者として行いました。

配達員を増員することは出来ましたが、未だ配達員不足で新規利用希望をお断りすることがあります。

配食弁当利用者に対し秋にアンケート調査を実施し、集計結果を配布しました。